



2025 年 11 月 12 日

各 位

会 社 名 ENEOSホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役 社長執行役員 宮田 知秀
 コード番号 5020 東証プライム・名証プレミア
 問合せ先 インベスター・リレーションズ部 IRグループ マネージャー
 於勢 孝
 (電話番号 03-6257-7075)

2026 年 3 月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2025 年 5 月 12 日に公表いたしました 2026 年 3 月期通期連結業績予想（以下、「前回予想」）を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

記

1. 2026 年 3 月期 通期連結業績予想数値の修正（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	税引前利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的 1 株当たり当期利益
前回発表予想（A） （2025 年 5 月 12 日発表）	11,700,000	360,000	345,000	185,000	68 円 76 銭
今回修正予想（B）	11,400,000	290,000	275,000	135,000	50 円 19 銭
増減額（B－A）	△ 300,000	△ 70,000	△ 70,000	△ 50,000	△ 18 円 57 銭
増 減 率	△ 2.6%	△ 19.4%	△ 20.3%	△ 27.0%	△ 27.0%
（ご参考）前期実績 （2025 年 3 月期）	12,322,494	106,093	88,219	226,071	79 円 96 銭

（注）2025 年 8 月 8 日公表の通期の連結業績予想では、5 月 12 日公表を据え置きました。

2. 修正の理由

原油価格（ドバイ原油）前提を 10 月以降バーレル当たり 65 ドル（前回予想では 10 月以降 75 ドル）、および円の為替ドル相場を 10 月以降 150 円（前回予想では 10 月以降 140 円）へ見直したことに伴い、原油および石油製品等の在庫影響^{※1}による損失が 1,300 億円（前回予想比 800 億円の減益）となる見込みであり、営業利益は 2,900 億円（前回予想比 700 億円の減益）となる見込みです。

なお、在庫影響^{※1}を除いた営業利益相当額は、以下のとおり、4,200 億円（前回予想比 100 億円の増益）となる見通しです。

※1 総平均法及び簿価切り下げによるたな卸資産の評価が売上原価に与える影響

<在庫影響を除いた営業利益相当額>

（単位：億円）

	前回予想	今回予想	増 減 額
営業利益	3,600	2,900	△ 700
在庫影響	△ 500	△ 1,300	△ 800
在庫影響を除いた営業利益相当額	4,100	4,200	100

事業セグメント別では、石油製品ほか事業において油価下落局面におけるタイムラグ影響^{※2}の一方、国内石油製品・輸出マージンが堅調に推移していることを受け前回予想を据え置き、石油・天然ガス開発事業は原油・ガス価格の下落により 50 億円の減益、機能材事業はマージン改善等により 30 億円の増益、電気事業は販売数量の増加等により 90 億円の増益を見込んでおります。

^{※2} 石油製品の売価は足元の原油価格が反映される一方、原油コストはおおよそ 1 か月前に購入した原油価格が反映されることにより、売価とコストに一時的な値差が生じる影響

<事業セグメント別 在庫影響除き営業利益内訳>

(単位：億円)

	前回予想	今回予想	増減額
石油製品ほか事業	2,400	2,400	0
石油・天然ガス開発事業	550	500	△ 50
機能材事業	130	160	30
電気事業	230	320	90
再生可能エネルギー事業	10	10	0
その他	780	810	30
合計	4,100	4,200	100

本見通しは、通期平均で原油価格（ドバイ原油）；バーレル当たり 67 ドル（10 月以降 65 ドル）、円の対米ドル相場；148 円（10 月以降 150 円）を前提としております。（前回予想：原油価格；バーレル当たり 75 ドル、円の対米ドル相場；140 円）

（注）本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、（１）マクロ経済の状況又はエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化、（２）法律の改正や規制の強化、（３）訴訟等のリスクなど、が含まれますが、これらに限定されるものではありません。

以 上